

イノベーション政策研究センター（CIP）令和2年度取組状況概要

○ イノベーション政策研究センター（CIP）について

平成31年4月に新たな大学院として、ヘルスイノベーション研究科を川崎市殿町の国際戦略拠点「キング スカイフロント」に開設するとともに、ヘルスイノベーション研究科の教育研究の取組を活かしつつ、政策立案の支援や学術研究・社会実装の推進に機動的に対応するため、全学の附属機関としてシンクタンク機能を担う組織として、イノベーション政策研究センターを設置しました。

○ 職員の状況（令和2年6月1日現在）

| | |
|------------|-------------------|
| センター長 | 1名〔SHI 教員兼務〕 |
| 副センター長（教員） | 1名 |
| 教員 | 3名〔うち2名 SHI 教員兼務〕 |
| 研究員 | 3名 |
| 特任研究員 | 2名 |

* クロスアポイントメント制度適用職員を含む。

* 契約職員は含まない。

○ 研究における主な取組

- ・ 大学内シンクタンクという位置付けの下、アカデミア、企業、行政等のステークホルダーとの協働、関係機関との連携を推進し、政策研究・政策立案支援・社会実装を目的とした領域横断的かつ革新的な研究プロジェクトを実施した。
- ・ 神奈川県シンクタンクとしても政策貢献を果たすべく、県が進める未病施策や保健医療データに関する取り組み等に対して大学が有する知見を提供した。
- ・ 引き続き、社会のニーズに応える観点から、県を始め様々なステークホルダーとの協働を通じて社会が実際に活用可能な成果を創出し、大学と社会とを結ぶ新たな回路として機能することを目指していく。

- ・ 神奈川県における保健・医療・福祉分野における政策形成に具体的に寄与していくことを目的として以下のプロジェクトを推進した。
 - ① 神奈川県における地域包括ケアシステム及び地域医療計画・構想立案のための基礎資料作成に関する調査研究
 - ② 神奈川県における将来の高齢者像と社会参加促進策に関する調査研究
 - ③ 神奈川県から提供を受けた KDB（国保データベース）をもとに RWD 解析技術を活用した解析手法の確立についての基礎的な調査研究
- ・ 神奈川県の要請に応え、新型コロナウイルス対策に関する助言等を行った。
- ・ 早稲田大学との共同研究を通じて、エフェクチュエーション理論に基づいたビジネスディベロップメントの手法開発と実証実験を目的としたワークショップを計 4 回開催した。

○ 社会（地域）貢献における主な取組み

- ・ 神奈川県等と連携し、前年度までに取り組んできた未病指標のプロトタイプの開発を発展させる形で「未病指標の精緻化等に関する実証事業」として神奈川県の MY ME-BYO カルテに搭載している未病指標の精緻化に向けた実証研究を推進した。
- ・ 神奈川県と連携し、保健医療データを活用した政策形成のための行政職員（市町村および保健所職員）向け研修を実施した。前年度の研修と同様の内容から構成される座学に加えて、保健医療データ活用の意義や具体的な可能性等についてのディスカッションを内容としたアドバイスコースを新たに設けるなど、オンデマンド形式ならではのコンテンツの拡充をはかった。
- ・ 神奈川県と連携し、「かながわ未病改善ナビサイト」掲載されているデータ等の更新を行うなど、保健医療等データの利活用に向けた基盤整備を進めた。
- ・ 神奈川県との間で、保健医療等データの利活用に向けた覚書（KDB、特定検診・レセプト、協会けんぽに関するデータ利活用）を新たに締結した。これを受けて、保健医療等データの提供を受けた具体的な調査研究を開始した（前掲）。

- ・ 神奈川県と連携し、県未病産業研究会の有料会員向けに公衆衛生学に関する基礎講座（計5回）を開催した。
- ・ 座間市との間で覚書を締結し、市町村から提供を受けた保健医療データに基づいて、座間市の健康増進事業の方向性を示すための調査分析を開始した。
- ・ また、オープンセミナー「再生医療特論」のオンライン配信を行い、6,629名の申込（全15回の参加申込数の合計）があるなど多くの受講者を集めた。

○ 産学官連携の主な取組み

- ・ 株式会社ファムメディコとの共同研究を通じて、医療・労働・社会疫学・栄養等の分野横断的なアプローチによる就労女性の働き方・生活習慣と健康に関する研究を推進し、研究成果の提供を行った。なお、本取り組みには、SHIの学生がインターンとして参加した。
- ・ また、エーテンラボ株式会社との共同研究により、デジタルピアサポートアプリの利用による健康行動の継続と、その背景要因についての探索的な分析に向けたパイロット調査を開始した。

○ 国際協働の主な取組み

- ・ イノベーション政策研究センター、ヘルスイノベーション研究科共催で、カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ合衆国）と、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた研究開発の動向および日米におけるイノベーション・エコシステムを主題に、joint Seminar Seriesを計3回開催（全4回で、令和2年度内は3回実施）した。なお、企画・運営にヘルスイノベーション研究科の学生が主体的に参画した。

【参考】令和2年度 イノベーション政策研究センター研究プロジェクト

| プロジェクト名 | 概要 |
|-----------------------------------|--|
| 未病指標の精緻化等に関する実証 | <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県みらい未病コホート研究などの研究基盤を活用しつつ、未病指標の精緻化及び未来予測機能の追加に向けた実証研究を推進した。あわせて、WHO等の国際機関との連携も推進した。 |
| 保健医療データ活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県内市町村の衛生統計、県内国保の健診および医療費データ、県内協会けんぽの健診データについて集計・解析を実施し、集計結果等の公表を行った。 ・県や市町村健康増進担当者や保健所職員等を対象として、保健医療データを健康増進活動に活用するための研修会を実施した。 |
| 就労女性の働き方・生活習慣と健康との関連に係る調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性の健康を軸に、就労環境、職場環境、生活習慣、食事のとり方や内容、働き方、周囲のサポートなど、女性の生活全般を捉えたうえで、都心部で働く女性の心身の健康状態を同定し、それに影響を与える要因との関連を解明するための調査研究を推進した。 |
| 再生医療エコシステムの形成に向けた研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・再生医療の技術の萌芽期のうちからコスト面について検討を行うことにより、広く国民に再生医療を持続的に提供するための保険制度のありかたや、産業としての裾野を広げ、社会全般に再生医療によるインパクトを拡大するためのエコシステムのあり方についての調査研究を推進した。 |
| ヘルスケア分野における新規事業のビジネスプロセスの研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療に関する法規制をはじめとするヘルスケア分野固有の要素を特定しつつ、エフェクチュエーション理論などの最新の経営理論を用いることにより、ヘルスケア・ビジネスの特性にあった新規事業開発のプロセス解明に向けた実証研究を推進した。 |
| 神奈川県における地域包括ケア・地域医療構想のための基盤的調査・研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県での地域包括システムならびに地域医療計画・構想立案のために、神奈川県における医療・介護環境等について提供施設データを基にした圏域分析を行い、地域特性の解明に向けた基礎調査を実施した。 |

| プロジェクト名 | 概 要 |
|-------------------------------------|--|
| 神奈川県における将来の高齢者像と社会参加促進策に関する基盤的調査・研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の医療、健康、介護ニーズに関わるデータ分析等をもとに、2040 年度における神奈川県の高齢者像を想定するとともに、地域医療環境分析を行なうことにより、将来の高齢者のニーズに対応した社会参加促進策を今後検討していくための基礎調査を実施した。 |
| RWD を活用した解析手法の確立についての調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・国保データベース等を用いて神奈川県健康状況と医療費との関係性に関する基礎的な分析を行い、特に医療費に影響を与える要因について、医薬品マスタとの突合を行うことで試行的な分析を行った。 |
| 市町村保健医療データ活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が保有する保健医療等データをもとに、抽出・加工・分析することを通じて、市町村の健康増進事業の改善に向けた知見の提供を行った。本年度は、慢性腎臓病における糖尿病の罹患者数を踏まえた対策の重要性、及び介護予防にとって重要な健康課題を分析対象とした。 |
| デジタルピアサポートに関するインパクト評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルピアサポート「みんチャレ」の利用による健康行動の継続と、その背景要因についての探索的な分析を行うとともに、大規介入比較試験に向け、研究デザインの妥当性や実行可能性の検証を行った。 |